



日本ELVニュース

End of Life Vehicle

1年6回発行(1月 3月 5月 7月 9月 11月)

発行人 酒井清行
 日本ELVリサイクル機構
 〒105-0004
 東京都港区新橋3-2-2 一美ビル5階
 電話 03-3519-5181
 発行所(業務委託) (株)日刊市況通信社
 大阪 大阪市中央区日本橋1丁目17-20 日本橋丸ビル5階
 本社 電話 06-6631-5651

第3回定例理事会を開催 第3回定例任事会も開催



理事会には理事17名が出席した

来年度事業計画など討議

日本ELVリサイクル機構(酒井清行代表理事)は3月16日、平成18年度第3回理事会を開催し、今年度実施した事業や収支、来年度事業計画などについて討議した。酒井代表理事ほか理事17名が出席。来賓として、中野孝経産省自動車リサイクル室長、中野哲哉環境省リサイクル企画課長補佐が出席した。

理事会での討議の結果、来年度の事業計画として、①自動車リサイクル法改正への準備作業②ELV入庫促進事業③自動車再資源化協力機構との協力事業④情報提供事業の強化⑤会員数拡大事業、の5つの事業を柱に活動を行うことを確認。6月に予定しているELV機構社員総会での承認を経て、事業計画を実施に移す。自り法改正への準備作業については、新たに準備委員会を設置し、会員

の要望をとりまとめるほか、これを裏づける各種データを整備する。ELV入庫促進事業に

情報提供事業を強化へ

中央会補助事業に応募申請

ELV機構は2月28日、全国中小企業団体中央会に対し、平成19年度中小企業等活路開拓調査・実現化事業「組屋情報ネットワークシステム等開発事業」の応募を申請。このほど内定を受けた。「自動車リサイクルに必要な情報提供システムの基本計画策定と解体事業者向け情報システムの構築」をテーマに情報提供事業の強化に取り組む。今年度実施した「活

路開拓調査事業」の成果として、「ユーザーからの信頼の獲得」「自動車一台あたりの付加価値の向上」など自動車解体業者の将来ビジョンを示した。このビジョン実現のため、必要な情報の提供も重要なテーマと位置づけ、平成19年度の事業の柱の一つ「情報提供事業の強化」の中で中心的な事業として取り組む。ELV機構では、ホームページをリニューアルするなどで、活動趣旨や業界の状況、会員の紹介などを行っているが、同事業を実施することで、会員が必要とする情報を再度検証し、より効果的な情報ネットワークの構築を図る。自動車解体業者の多くが、中古自動車や使用済自動車、リサイクル部品の海外相場についての情報不足により不利な取引を強いられている面があることから、これら事業者のために情報提供システムを提供することがELV機構の役割として望まれている。

JARC・JARPPとの協力体制 ELV機構が強化へ

日本ELVリサイクル機構は、適正な自動車リサイクルの推進に向けて、関連団体の自動車リサイクル促進センター(JARC)、自動車再資源化協力機構(JARPP)との協力体制を強化している。ELV機構ではこれまで、両団体と情報交換

や調査事業などを実施してきたが、さらに協力体制を強化し、フロント類やエアバッグ類の適正な回収を実現するために必要な調査事業、適正処理の周知徹底を図るための各種事業などを実施していく計画だ。

や調査事業などを実施してきたが、さらに協力体制を強化し、フロント類やエアバッグ類の適正な回収を実現するために必要な調査事業、適正処理の周知徹底を図るための各種事業などを実施していく計画だ。

フロント類引取・回収業者登録

4月1日より更新開始

使用済自動車を扱っている事業者の登録更新が始まった。平成14年4月1日のフロント回収破壊法で

解体処理の実施は、自動車リサイクルシステムの効果的な運用に不可欠な要素だ。まず来年度の事業として、JARPPと協力し、フロント類やエアバッグ類の適正な回収に関し、機構会員の中から講師を選定し、地域組合とも協力しながら会員全体への普及活動を実施する。

「第二種特定製品引取業者」「第二種フロント類回収業者」の登録を行った場合、最も早い事業者で4月1日に登録の満了日を迎えるため、引き続き事業を行うためには管轄自治体への登録更新が必ず必要となる。更新する場合は、まず前回登録時に自治体から発行された登録通知書の有効年月日満了日は登録日から5年を確認し、管轄自治体へ登録の更新を申し込む。自動車リサイクルシステム事業者情報登録センターへ書類を提出する必要がある。満了日が過ぎてしまった場合、管轄自治体と登録センターへ新たに登録を申し込む必要がある。

リンデマン RASクラップ ベーリング・プレス

世界に広がる リンデマン ブランド

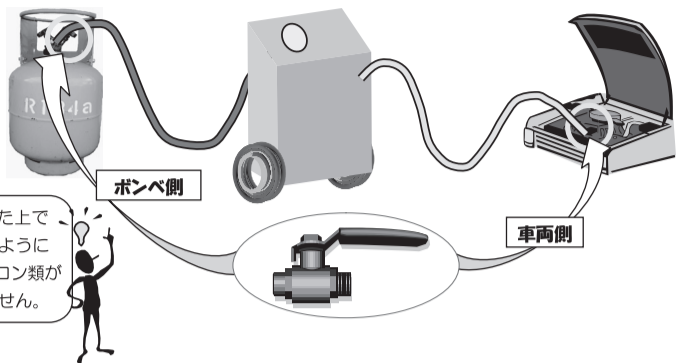
リンデマン
メタルクラッシャー

リンデマン シュレッダー
パワーツァーディラトール

メツォ・ミネラルズ・ジャパン株式会社
 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-14-11
 TEL: 045-476-3930 FAX: 045-476-3933
 お問い合わせ: minerals.info.jp@metso.com URL: www.metsominerals.com/jp

漏れ防止バルブの使用

フロン類を回収した後、車両やポンペから接続ホースを外す際にそのまま外すと回収したフロン類が漏れる可能性があります。ポンペ接続側および車両接続側に漏れを防止するストップバルブを取り付けることをお勧めします。

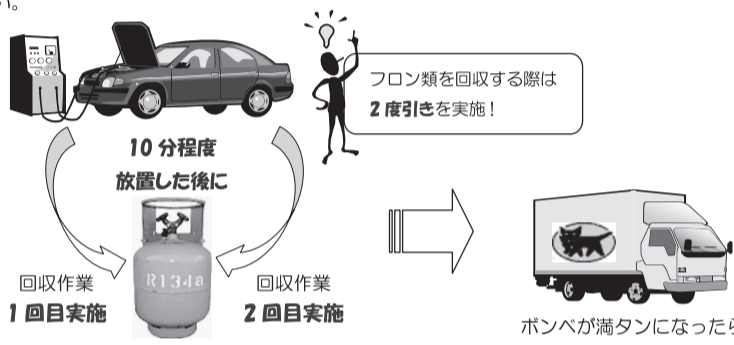


ストップバルブを締めた上で接続ホースをははずすようにすれば、回収したフロン類が漏れることはありません。

※ストップバルブとは、レバーを回転させてホース等からガスが漏れるのを防ぐ機能があるものをいいます。

2度引きの実施

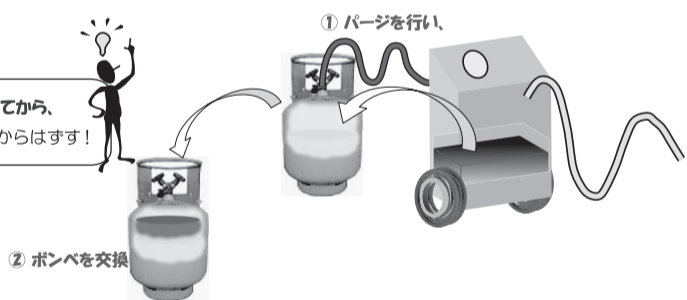
エアコン内にオイルが残っている場合は、オイルに溶け込んだフロン類が気化しきれないまま残っているため、最初に回収した後10分程度放置しオイルから気化した後、再度回収を実施してください。



※冬季の気温が低い時期や1BOX車等でなかなか回収しにくい場合には、事前に数分間エアコンをONにした状態で暖機運転を行うことで回収しやすくなりますのでお試しください。

パーシ(リフレッシュ)作業の実施

ポンペを交換する際は、回収機の内部に溜まったフロン類を全てポンペに移す(通称:パーシ作業)ことで、回収機からの漏れやCFC/HFCの混入を防止することができます。1日の作業が終わった後にパーシを行っておくことも、夜間の回収機からの漏れを防止する有効な手段です。



※パーシ機能がない回収機を使用されている場合は、ストップバルブ等を使用してフロン類が大気中に放出されないように管理してください。

推奨するフロン類回収方法と回収機器の管理法

自動車再資源化協力機構は、フロン類の適切な回収を実施するよう呼びかけている。推奨するフロン類回収方法と回収機器の管理法として、①漏れ防止バルブの使用②2度引きの実施③パーシ(リフレッシュ)作業の実施の3点を挙げ、同作業の実施をフロン類回収事業者に求めている。

自動車再資源化協力機構は、先に日本ELVリサイクル機構の協力のもと「フロン類の回収に関するアンケート調査」を行った。その結果、①回収時のフロンガス漏れ防止バルブの使用②2度引きの実施③残留フロンガスのパーシ処理(リフレッシュ)の3点について、さらに、改善の必要があると判断した。

特に凍寒期の作業ではガスが不活性で、日頃行っている方法では十分に回収しきれないことが起こる。そこで自再協として「推奨する方法」を取りまとめ、作業手順の「下敷き」を製作したものである。

自再協としては、次の3つのポイントを特に注意する点としている。①ガス漏れを防ぐため、ストップバルブを車両側とポンペ側に取り付けて、回収作業中は必ず閉鎖する。②エアコンにオイルが残っている時は、オイルに溶け込んだフロン類が気化せずに残っているのを、最初に回収した後に10分ほど放置し、再度回収する(冬季の気温が低い時期や、ワンボックス車などで回収しにくい場合は、ガスを抜く前に数分間エアコンをONにして、暖気運転をすれば回収し易くなる)。

③ポンペ交換の際には回収機の内部に溜まったフロン類全てをポンペに移す(所有の回収機にパーシ機能がない場合は、ストップバルブを使って、ガス漏れがない様に作業する)。

また大橋氏は「回収台数に応じた回収装置の導入が必要で、例えば一日あたりの回収台数が導入当初に比べ増えている場合は、その装置の能力を超えて使用している場合がある」と指摘する。さらに両氏は「エアコン内に添加剤として「ガス漏れ防止剤」が封入されている例が最近多くなってきており、そのまま回収すると回収装置の故障の原因になる」と注意を呼びかけている。

フロン類回収装置 早めのメンテナンスを

自動車解体業者の多くはフロン類回収業者として、日々フロン類の回収作業を実施しているが、当初の回収時間に比べ、回収時間が長くなっているといった声がELV機構本部に多く届いている。回収時間が長くなることで効率が落ち、使用済自動車

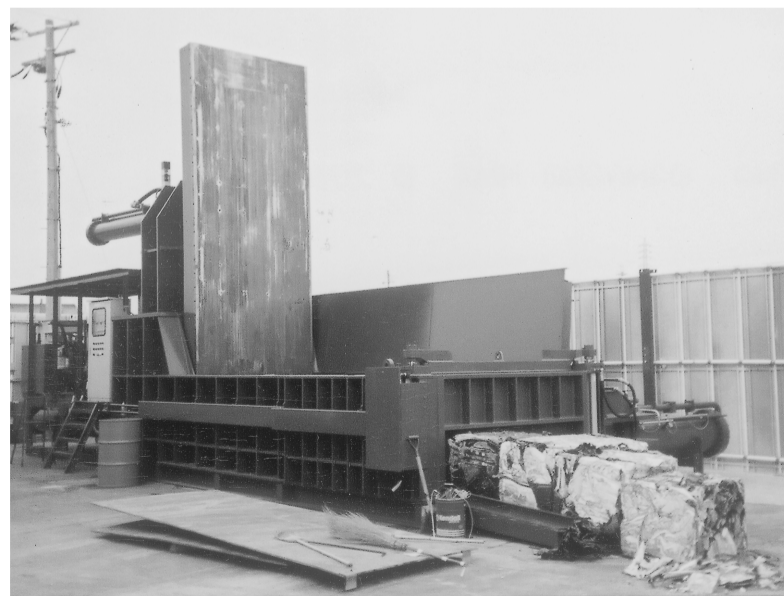
の処理台数に影響が出る。また場合によっては、2度引きの実施などで消耗品の交換時期となります。早めのメンテナンス、オーバーホールが必要」と話す。

アサダ(株)営業本部の大橋氏は、そうした問題の多くは、その装置が消耗品の交換時期にきていることを指摘する。「一般的に流通している回収装置は、だいたい使用時間が1千時間から2千時間で消耗品の交換時期となります。早めのメンテナンス、オーバーホールが必要」と話す。

また大橋氏は「回収台数に応じた回収装置の導入が必要で、例えば一日あたりの回収台数が導入当初に比べ増えている場合は、その装置の能力を超えて使用している場合がある」と指摘する。さらに両氏は「エアコン内に添加剤として「ガス漏れ防止剤」が封入されている例が最近多くなってきており、そのまま回収すると回収装置の故障の原因になる」と注意を呼びかけている。



三方締廃車プレス機(横蓋式)



三方締廃車プレス機(縦蓋式)

※その他各種プレス機を製作。

エアバッグ類車上下作動処理 自再協が自己監査講習会

ELV機構が協賛・協力

自動車再資源化協力機構は、エアバッグ類の車上下作動処理を実施する事業者の不適正業務を未然に防止することを目的に、3月から6月にかけて全

国21会場で自己監査講習会を実施する。日本ELVリサイクル機構が協賛・協力し会場や実習車を提供する。

自再協は、05年度から車上下作動処理契約事業者約2500事業所の監査を実施している。当初は3年間で全事業所の現地監査を終える予定だったが、これまでの実績は7

08年度、09年度に現地監査を実施する約800事業所について、「机上監査」「講習会」を通して不適正業務を未然に防止する。

講習会では、車上下作動処理監査の概要説明のほか、適正な車上下作動処理の実務を学ぶため、実習車2台を利用して実演を行う計画だ。

日本ELVリサイクル機構 賛助会員に9社入会

日本ELVリサイクル機構の「賛助会員」として、9社が新たに入会されました。

入会したのは、朝日金属(株)、(有)S・K・R、大協金属(株)、コベルコ建機(株)東関東支店、(株)齊藤エンジン、鐵甲金属(株)、豊通リサイクル(株)、(株)ヤマナカ、和光金属(株)横浜営業所の9社(50音順)です。

賛助会員に関するお問い合わせは事務局(電話03-3519-5181)までご連絡下さい。

自己監査講習会 日程表

3月15日現在

開催予定日	開催候補地	会場
3月3日	沖縄県沖縄市	拓南商事(株)
3月17日	熊本県熊本市	榊キタグチ
3月24日	福岡県北九州市	北九州ELV協同組合
4月7日	愛媛県松山市	南ヤツツカ
4月13日	広島県福山市	常石CRS(株)
4月14日	兵庫県姫路市	榊多田自動車商会
4月14日	大阪府門真市	榊ミヤモト
4月21日	三重県松坂市	榊三重パーツ
4月21日	岐阜県岐阜市	榊近松商会
5月12日	静岡県磐田市	エヌスコポレーション(株)
5月12日	新潟県新潟市	新潟自動車リサイクル
5月19日	東京都江戸川区	秋間商会
5月21日	千葉県富津市	東日本資源リサイクル(株)
5月21日	石川県金沢市	未定
5月26日	埼玉県さいたま市	未定
5月26日	神奈川県横浜市	未定
6月2日	群馬県前橋市	未定
6月2日	宮城県仙台市	榊三森コーポレーション
6月9日	北海道札幌市	丸利伊丹車輛(株)
6月9日	北海道旭川市	榊十商カムイ
6月16日	香川県高松市	未定

48事業所と取扱い台数カバー率は87%を達成したものの、全体では30%しか達成していない。全事業所の現地監査には5年を要する見通しだ。このため自再協では、

東京ビッグサイトでIEEA2007 ELV機構が協賛・出展



ELV機構の出展ブース

オートアフターマーケットの専門トレードショー「第6回国際オートアフターマーケットEXPO 2007」(IEEA2007)が3月16日〜18日、東京ビッグサイトで開催された。国内外から約250社が出展し、補修部品やリサイクルパーツ、用品・アクセサリ、カーディテイルング関連資材、軽補修・リペア、整備関連など幅広いビジネス提案を行った。同ショーでは、各種セミナーやシンポジウム、出展者プレゼンテーションプログラムなども実施され、3日間約3万9千人が会場を訪れた。

同ショーに協賛している日本ELVリサイクル機構も出展し、自動車リサイクル法への理解や自動車リサイクル部品の普及促進を訴えた。

四方山話

毎度馬鹿馬鹿しいお笑いに、お付き合い願います。

熊さん 熊さん、ご在宅ですか。いませんよ。

熊さん それにしても今年は、冬の寒い冬ではなかったですね。あつしらが鼻をたらししている時は、「不都合な真実」の

分は、桶に氷が張り、木の枯しがピューピュー吹いて、耳がちょん切れるほど寒かったですね。だんだん暖かくなっている気がしますよ。

熊さん そんな暖かいことに、何か原因はあるんですか。

熊さん メリケン国の政治家で、副大統領をも務めたアル・ゴアさんは、「不都合な真実」の

酸素を作るからね。フロンガスも温室効果があるから、適切に回収することが大事だね。

熊さん 大家さんの竹馬の友の解体屋さんは、地球の環境を守る立派な仕事なんですね。

熊さん 良く分かってるじゃないか。そうさ、廃車の3R(リユース、リデュース、リサイクル)、フロンガスの回収などを行いなから、地球の環境の保全・保護に大きく寄与しているからね。だから竹馬の友には、もっと胸を張れといっているんだ。

熊さん 解体屋の行為は、好都合な真実。

不都合な真実



ランダムハウス講談社刊
アル・ゴア著「不都合な真実」
定価2800円(税別)

好都合な真実 考え亭のころ

熊さん 熊さん、言葉が過ぎるよ。

熊さん どうすればCO2の発生を抑えることができるんですか。

熊さん 燃料を無駄に使わない。いま使っている製品を可能な限り、長く使う。使えなくなったら、リサイクルすることだよ。それに木を切つたら、植林することだね。樹木はCO2を吸収して、

熊さん 熊さん、言葉が過ぎるよ。

熊さん どうすればCO2の発生を抑えることができるんですか。

熊さん 燃料を無駄に使わない。いま使っている製品を可能な限り、長く使う。使えなくなったら、リサイクルすることだよ。それに木を切つたら、植林することだね。樹木はCO2を吸収して、

熊さん、あれですか。良知っているじゃないか。八っあん 映画館に大きな看板がかかっているから、いやでも目に付きましょー。

熊さん 熊さん、言葉が過ぎるよ。

熊さん どうすればCO2の発生を抑えることができるんですか。

熊さん 燃料を無駄に使わない。いま使っている製品を可能な限り、長く使う。使えなくなったら、リサイクルすることだよ。それに木を切つたら、植林することだね。樹木はCO2を吸収して、

熊さん 熊さん、言葉が過ぎるよ。

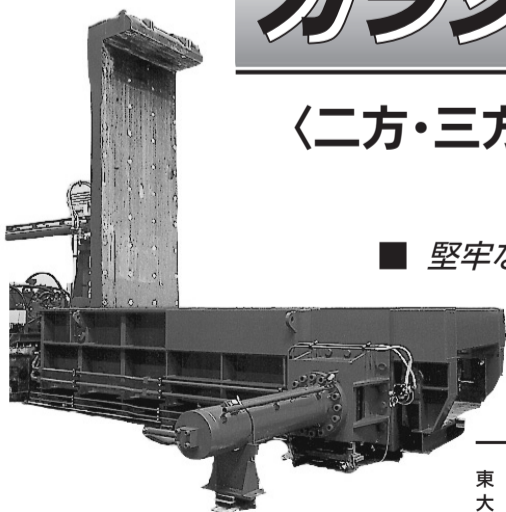
熊さん どうすればCO2の発生を抑えることができるんですか。

熊さん 燃料を無駄に使わない。いま使っている製品を可能な限り、長く使う。使えなくなったら、リサイクルすることだよ。それに木を切つたら、植林することだね。樹木はCO2を吸収して、

ガラクーダー

〈二方・三方締め兼用〉 廃車プレス機

- 堅牢な構造
- 高性能な廃車ガラプレス機
- 待望の低価格



富士車輛株式会社

東京 TEL(03)5687-1211
 大阪 TEL(06)6838-9410
<http://www.fujicar.com>
 名古屋 TEL(052)621-6900
 福岡 TEL(092)622-1758
 サービス部 東京 TEL(03)5687-1211
 大阪 TEL(06)6838-9411

鉄スクラップの国内販売・輸出 廃モーターリサイクル

セルモーター ラジエタープレス ハーネス 白黒エンジン etc 求む

リサイクル・カンパニー



大原商事株式会社

本社 大阪市西淀川区花川2丁目21番12号 大原ビル
 TEL 06-6473-1898(代) FAX 06-6473-5827
 集荷ヤード 大阪港内櫻島埠頭・尼崎港・伊万里港
 海外 韓国・中国

エアバック類車上作動処理自己監査講習会 4月13日に大阪会場で開催

自動車再資源化協力機構主催(日本ELVリサイクル機構が協力)による「エアバック類車上作動処理に関する自己監査講習会」が4月13日午後1時から、大阪府門真市の(株)ミヤモト・門真支店で開かれた。当日の参加者は20余名。

自再協の柴田芳徳氏が

車上作動処理委託契約と監査、自己監査講習会の位置付けについてなどを資料を使って説明した。鍋谷佳成氏は2台の廃車を用いた適正な作動処理実務説明を担当(実際にはエアバックの車上作動処理は行わず、模擬実習)。

①作業員の静電気を除去
②保護メガネ、手袋を付ける
③バッテリーターミナルを取外して、所定の時間放置する
④エアバック作動時にガラスが飛散しないような対策を行う
⑤5分ほど離れて通電
⑥



大阪会場で説明する柴田芳徳氏

廃車の金属相場は堅調 大阪地区の市場

使用済み自動車の解体時に発生する金属スクラップ素材等の相場は堅調である。全国的に見て比較的高水準といわれる大阪地区の相場は次の通り。

足回りや、ボディガラは主に電炉等の購入価格、実勢値にスライドして動く。電炉メーカーの購入意欲が強いことから、白黒エンジン相場は、廃車解体業者ヤード渡しで、1トン当たり6万7

発生ガス・防音対策を実施の換気時にはマスクを使用するなど。日本ELVリサイクル機構の寺谷理事が「日本ELVリサイクル機構は自動車解体業者の団体として、経産省等の行政機関が唯一認められた組織」と紹介。参加者にそれぞれ地域の組合員となって同機構への団体による加入を呼びかけた。

000〜6万8000円
どこで強い。廃車解体台数の落ち込みに伴い、白黒エンジンの発生が低調で、品薄となっていることが強気理由である。LME銅相場の急進を

自動車製造と材料の話
広田民郎著 グランプリ出版
「自動車の正体を知らないうちにクルマに反対したい」クルマに反対する著者の思いが詰まった「クルマの製造法」(第1章)に始まり、ボルトやナット、バネなど「クルマで活躍する機械要素」(第2章)、ついには

鋼板や樹脂など「クルマの素材」(第3章)にまで広がっていく。1冊の本として出来上がるまでに1年を費やし、途中「街中で見かけるクルマが部品部品の部品・とバラけて見えた」ともあるという。自動車解体工程で扱う数々の部品。その一つ一つの成り立ちを知る上で、お勧めの1冊だ。

相次ぐ金属盗難事件 経産省が身元確認などを要請

経済産業省は3月13日、金属盗難事件が全国で多発していることを受けて、

金属スクラップの流通や加工処理、再資源化を行う事業者の団体に、本人確認の徹底など盗難品流通を防止するための周知徹底を行うよう要請を行った。

警察庁の調べによると

機構ホームページで情報提供 会員専用ページを充実

ELV機構は、ホームページや電子メールを通じての会員向け情報提供を充実させる。機構の活動はもとより、行政情報や各地域組合の取り組みなど、ホームページの中に設置した会員専用ページでいち早く情報を提供していく。

入口から、「JAERA告知板」「ご意見・ご質問コーナー」「トピックス」の各ページを閲覧することができる。また、機構が実施した調査事業の報告書やアンケート調査結果なども閲覧でき、現在「フロンティア」に関するアンケート調査の結果報告書が掲載されている。



ホームページリニューアル!
告知板・JAERA News Letterなど内容も充実
<http://www.elv.or.jp>

このため経産省は、①盗難品を購入しないよう購入時の本人確認及び記録を徹底すること、②搬入までの経緯、荷姿等の確認を十分行い、盗難品の疑いがある場合には、警察当局に連絡すること、の2点を関係団体に要請した。

廃車ガラ・あき缶・鉄スクラップ・アルミサッシ・廃家電の全てを処理する万能プレス機

《ハードプレス21》登場!

これまでのプレス加工では、投入材料によって使用するプレス機を使い分けなければならず、小型プレス機、廃自動車プレス機、三方縮プレス機など、それぞれに設備投資を行っていました。無論、そのためのスペース確保も必要でした。しかし、これからは無駄な投資もスペースも必要ありません。たった一台のプレス機がすべての処理を可能にします。

あき缶から廃車ガラまで、一台で何役もこなす万能タイプのプレス機、それが新発売の「ハードプレス21」です。基礎工事不要の据え置き型で、設備投資費を押さえ、工事期間もわずか。遠隔全自動操作で運転はだれにでも簡単に行えます。主動力には迅速な処理と消費電力コストの削減を両立する50HPを採用し、高いコストパフォーマンスを実現します。

最新のリサイクルシーンを見つめる兼六工業から、ハードプレス21の登場です。ユーザーの期待に応えるマルチな活躍をお確かめください。

モデル	ハードプレス21	本体寸法(mm)	6000(W)×5040(H)×9630(D)
モーター出力	50HP	投入ボックス寸法	2000(W)×1300(H)×5000(D)
プレス所要時間	約2分40秒	製品出来上がり(廃車)	2000(W)×650(H)×FREE(D)
処理能力	50~60トン/日	あき缶(アルミサッシ)廃家電	500(W)×650(H)×FREE(D)

特許2037009号

株式会社 兼六工業
本社工場 〒334-0075 埼玉県川口市江戸袋2-7-22号 TEL 048-285-0911 FAX 048-285-0914
金沢工場 〒920-0211 石川県金沢市湊町3-8-11 TEL 0762-37-5323 FAX 0762-37-8416